



第16回 論語指導士 鈴木義史（第百五十六号）静岡県

日本人の民度とは何に？

新型コロナ第一次感染は欧米に比べ、はるかに低い数値で収まって来た。

これは、なぜか？ 「民度の差」という言葉で、物議を来たした。

種々の要因があるだろうが、私は「民度」的要素もあると思う。

この民度の定義、判断基準は明確にはないが、日本国、日本人を二人の著名人が評した。

1922年（大正12年）11月アインシュタインが訪日後のメッセージで、【日本の驚異的發展には他国と違った何ものかがなくてはならない。日本の歴史がそれである。長い歴史を通じて一系の天皇を戴いて来た国体を持っていること。私はいつもこのように尊い国がなくてはならないと考えて来た。（途中略）我々は神に感謝する。神が我々人類に、日本という国を作ってくれたことである】更に息子たちへの手紙で、【この民族を気に入った。それは物静かで、謙虚で、知的で、思いやりがあり、礼儀正しく、責任感がある。人間同士の和、自然との和を大切にする日本人の伝統的な生き方は、全世界が必要としている】と述べ。又、大正10年から昭和2年駐日フランス大使を勤めた、詩人ポール・クローデルは戦時中1943年、敵国である日本について「日本人は貧しい。しかし高貴だ。世界でただ一つ、どうしても生き残って欲しい民族をあげるとしたら、それは日本人だ。」「日本は古い文明を持ちながら、それを見事に近代文明に適応させた国」と語った。

ここに「民度とは何か？」デジタルな基準値はないが、アナログ的精神文化で、それは「仁の文化」ではなかろうか？

西暦285年論語が伝来し、聖徳太子が「和を以て貴しと為し、いさかきを無きを宗と為す」と諭し、大和文明は、人と自然との和、素直な心で論語を受け入れ、多くの学者、智者、徳川家康、渋沢栄一等も吸収し、修養し、武士道を代表する精神文化を創りあげた。渋沢栄一は「論語と算盤」＝「精神と経済（物質）両文化」のバランスの大事さを実践、示し、このバランスの大事さが、今、世界の経済界に於いても、再評価・見直され研究されている。

学而1-2「君子は本を務む。本立ちて道生ず。孝悌は其れ仁の本為るか。」とある。人間の根本である精神性を高める修養に努力すれば、正しい生き方が分かり、父母、目上を敬い、人間愛を持つ「仁の文化」が生ずる。これが、日本人の民度ではなかろうか？昨今、徐々に「仁の文化」は薄れて来たかと思えるのは、私一人なのか？老婆心か？



「加地伸行からの百字答礼」

鈴木義史様へ

『論語』学而「礼の用は和もて貴しと為(な)す」に基づいて聖徳太子は、その十七条憲法に「和を以て貴しと為す」と記しました。この言葉を聖徳太子が始めて述べたと誤解している人が多いのですが、誤りです。ご注意を。